

「信州からリニア問題を考える」シンポに大勢の住民参加（２）

中野 貞彦

前号に続いて、質疑応答と、後半の野口俊邦氏の司会で進められた総合討論を紹介します。地元の方の貴重な質問・意見と、リニアの問題にどう向き合うのかについて豊かな内容が語られており、2回に渡ってできるだけ忠実に紹介します。

＜立坑は？ トンネルは？—長田講演への質問—＞

Q：愛知県には立坑4つと斜坑1つが造られる。鉄道総研の論文で、微気圧波が出て行く立坑の口の扉を開けたり閉じたりで調整できると言っているが、立坑には非常口と階段がありエレベーターも一緒にあり、ここから出てくる風は完全には防ぐことはできないとも載っている。山梨実験線では立坑はあるのか、もしあればそこでの状況を教えていただきたい。

A（長田）：立坑やトンネルの現場にいまは入ることができないのでよくわかりません。論文をみるとトンネルの出口のところで緩衝工を作って微気圧を和らげている。立坑はトンネル工事の際に本坑への進入路として5～10キロごとに設置し、あとで微気圧波を外部に出したり、救出と避難の経路としても役立てる、ということですね。5kmごとに避難場所があってもお年寄りなど体力のない人はどうするのか。立坑も避難所として使うということは煙は一体どこへ逃げて行くのか、どんな事故が起こるのか、地震だとどうなのか、無人で走るの誰が誘導するのか、など問題があります。我々より住民の皆さんの方が知恵が働くのでどんどん意見を出していただきたい。多分鉄道総研の研究者は気づいていると思いますが、必要ないといわれて予算が出なければ研究はできませんよね。原発では、危険だからと研究の必要性を訴えても、これはアメリカでクリアしているからやる必要はないと言われてきたそうです。今度の場合は、住民の皆さんの運動によって「ちゃんと説明してくれ」と要求が出されればかなりできる、と思います。特に、鉄道関係、電気通信関係の研究は歴史が古く、研究者が沢山います。不便なことがあったら、あるいはおかしいと思うことがあったら大声をあげることが大事です。そうしたならば研究者は喜んでそれに応じることができます。具体的なお答えができませんでしたが・・・。

＜赤石は年4ミリ上昇しているが安全はどうか？—総合討論—＞

Q：飯田市上郷飯沼^{かみざといいぬま}の、リニアの駅ができる近くの丹保という所から来ました。赤石は年4ミリ上昇していると言われますが、トンネルをつくるうえで支障はないのか？それから長田先生に聞きたい、そうした場合リニアは本当に安全と言えるか？加えてリニアがガイドウェイから外れた場合になくなるのか？防御・安全装置が働くのか？2点を教えて頂きたい。

A（松島）：4ミリというのは、明治時代に測量部が始めた水準測量ですね。この辺では三州街道から始まって小川路峠^{おがわじ}を越えて木沢へ下って掛川に向かう路線を

測っている、いわゆる1等水準点です。100年経った時に国土地理院が発表したなかで、4ミリというのは谷のいちばん下の木沢という水準点の変動で、谷底で4ミリなんです。100年で40cm、1000年で4m、JR東海はその程度だったらどうってことない、と言うのでしょうか。それはあくまでも木沢の測定値なんです。昨年4月、国土地理院は別の方法で日本の三角点を全部測量をやり直した。そのなかで、圧倒的に山を高くしたのは伊那山地と一部は三河高原まで含めた赤石山地です。北アルプスで高くなった山は2,3個あっただけ、赤石のエリアで低くなった山は1個もありません。つまり南海トラフ側が高くなるので、どうしても赤石は毎年毎年何ミリか高くなっていく。そして赤石の3000m級の山というのは東京湾の海面からの高さであって、山は海底からなんです。南海トラフが5000mの深さですから8000mなんです。何人かの研究者は3000mの稜線は年に6ミリくらいだろう、と言っています。でもリニアはその下を通るから6ミリはないよ、3ミリだよ、とJR東海は言うかも知れない、漫談的なんです。それでどうなるかということは難しいのですが、いざ東南海地震が起きた時は南アルプスの山は不安定だ、ということです。宝永以来の地震でいくつかの山が山体崩壊している、この辺でいうと遠山の池口崩壊というのは日本の山体崩壊のなかでも横綱級なんです。リニアの路線のなかでも同じ事が起こる可能性が十分あるわけで、基本的には起こってみなければわからない。

A (長田)：私は鉄道の専門家ではないので確かな事は言えないのですが、山梨実験線の成果は、何十万キロ走ったけれど事故は起こさなかった、と言っています。鉄道技術者は普通、そういう形で技術への信頼度を測る、いちばんのやり方のように見える。けれど、今日松島さんの話を聞いてますます危険だと思いました。率直に言って、実験室のなかでリニアをやってこれで万々歳だとは決して行かない。それを尺度にして、そのまま営業線に持ち込むわけにはいかないだろう、と思いました。金融関係・銀行などでコンピュータ・ソフトウェアの大きな事故が起こりますよね、実験室でやっている程度では問題は起こらなかったけれど世の中に出したら、いろいろ大量に、今まで使われていなかった所も使われて不具合があつて事故が起こった、ということです。リニアで若干似ているように思われるのは、確かに実験線では大丈夫だった、けども営業線ではどうだろうかと危惧をもたざるをえません。鉄道のように総合力を必要とする技術は電気や車両など個別の専門技術者が確信をもてる安全な技術を造ったと言っても、例えば地質学者がこういう場所はでは無理だよとか、法律学者がこういうことをやると住民の権利を侵すことになるよ、というようにどんどん意見を出してもらって、そして決めていくというのがいちばんいいやり方ではないかと思っています。

人知の限りを尽くし、先端技術を駆使して造った構造物でも、絶対安全だと言いきれないし、鉄道総研の技術者たちも言えないだろう、と思いますね。たとえば研究者が、安全性においてここに問題があると社内のミーティングで報告する、

でもそのことを理解できる、できないかを別にして、とにかく安全だということを主張しなければならない立場の人もいますから…。研究者でも‘実は私は環境問題として問題はないというデータを集めてそれを発表しなければならない立場なんだ’という人もいます。それでは学問としては片手落ちもいいところですが、そういう研究者、学者もいます。それは批判すればすむ問題ではなくそうした根源を取り除いていく国民的協働が必要であると思います。私は以前に「IT 革命」の論議の際に、云々という時から、不具合についてはどんどん文句をつけられることによって技術は確かめられ、磨かれていくものなんだということをお話しましたし、本にも書いてきました（『「IT 革命」を考える』新日本新書、2001）。いま松島先生のお話を聞くと、やっぱりダメなものはダメ、やめた方がいいという気持を強く持ちます。

<公開質問状を出していただきたい>

Q：飯田の伊豆木という所に住んでいます。私は建設理由、財源、非公開性、電力その他含めて反対の立場です。2011 年から 2013 年までに飯田で開かれた 4 回の説明会で、発言は 3 分間というのを 10 分以上限りなく反対に近い質問をした。彼らなりに屁理屈を言いましたが、遂に一言も答えなかったことが一つあります。トンネルが地震に対して耐えるか、本当に大丈夫なのかと質問しました。答えていないじゃないか、と言ったんですが、彼らは全員苦笑いしたままで答えませんでした。人の命は地球より重いと言いますように、一人でも死んだら大変なんです。これだけでも不明瞭な間は、安全であるということが明確にならない間は、着工してはならない。日本科学者会議に期待して参加したので、お答え願いたい、あるいは検討していただいて JR 東海あるいは政府に対してはつきりと公開質問状を出してほしい、と要望します。

A（長田）：そうした要望に応えなければならないと思います。その準備をはじめたいと思います。法律関係の方を含めて勉強会をやっています。理系の研究者として私自身は、鉄道総研、JR 東海の研究者のみなさんと、リニア問題に関しての国民的関心事について率直誠実に語り合うことができればと思っています。岐阜や静岡の JR 東海との打ち合わせの議事録を読むと、向う方の説明者は、話や質問をはぐらかす、あるいは高飛車な態度を取るといった不誠実さが印象に残ります。ある人は「俺はもう行くのが嫌になったよ」というような議論になっている。そういうことは国民の前で許さないような決意を持って臨みたいと思っています。私たちの「声明」のなかのいちばんの基本点の一つは「科学的根拠のないものは着工してはならない」ということです。今のところ何点かにわたって、ここに書いておきましたけれど、きちんとした説明と実証がありません。ですからこれはすぐに撤回あるいは中止するように、ということ、国土交通省や JR 東海や 31 の首長に出しました。研究者の良心にかけて絶対に後に引かないという決意であります。

＜リニア駅のために 50 戸の移転＞

Q: 飯田市の^{なご}上郷飯沼に住んでいます。この間上郷でいろんな説明会が行われ、リニア駅に関する住民の不安、リニア計画全体に対する地域の皆さんの不安がとても広がっている、と実感している。住民の力で、JR 東海が何をしようとしているのか、計画や工事がどう生活に影響するのか、しっかりチェックしていかないと、とんでもないことになる。駅自体は 7 ヘクタールという空港並みの計画であって、しかしまだ周辺計画はがっちり決まっているものではないのですが、すでに 50 戸ほど移転しなければならない、と予測されている。工事や住宅関係者は住民の気持ちを横に置きながら、どんどん進めている。全部 JR 東海の計画待ちであって、県や市は関連道路の計画の見通しも示していない。そうした進め方や JR 東海の説明会も、少しずつ小出しにしている。普通の生活道路の改修も市の予算に盛り込まれているので、ちゃんと見ていかないと何がリニア関連の予算かわからない。普通の生活に必要なことも全部リニアに含まれて、非常に過大な需要見込みがなされている。我々が見張っていかないと、とんでもないものができるなど思っています。大鹿村では横穴の先進坑のボーリング作業が始まっていますし、生活道路の幅も含めて測量が始まっている、そういう一つひとつの情報を集めて、技術的な所から住民への影響も含めて、ネットワークの力で対抗していく必要があるなど思っています。以上、質問でなく、意見です。

＜トンネルが通る南木曾町と協定書を結ぼうとしない＞

Q: 隣の^{なご}南木曾町に住んでいます。トンネルが南木曾町を通ることから、住民は、地下に断層がいくつもあってその危険性を JR 東海に訴えているのですが、地下なので地震の影響はない、と、きちんとした資料もなく、言葉を濁すような形で済まされています。私自身、地質学的に、理論的に訴えられるような資料を頂きたいし、先生方のお話も頂きたかったのですが、今後科学者会議のなかで出していくということだったので、期待したいと思います。

もう一つ質問なのですが、JR 東海の回答のなかで、南木曾町のトンネルは地質学的には深部の真正な地盤岩中を通過するので、トンネル内の側面や岩盤の小さな亀裂から水がしみ出るとは考えられるが、それ以外の深い深層の部分での地下水の影響はない、ということで、水質または水枯れについては影響がないということを含めて全面的に出して、町との協定書を結ぼうとしていないのです。そういった JR 東海の回答について松島先生に、本当なのかなとお聞きしたい。

A(松島): 集落はどこですか？ (^{あららぎ}「蘭です。トンネルの抗口になっている所です。」) 詳しくは会場にいらっしゃる南木曾町議員の S さんに聴いてください。私も案内していただいて行きました。^{つまご}妻籠の水源池の真下をトンネルが通るわけですね。あんな無茶なことをして、そんな説明だったのですか？ そんな馬鹿な、目に見える水源池の、妻籠の人たちがそこには手を付けないように保存管理しているところに、地下だからといってトンネルを開ける、そうしたら天井から雨漏りする。

ざるの下に穴を開ければ落ちてくるでしょう。妻籠の上水はどうなるのでしょうかね。いちばん問題です。全体に花崗岩が主だから地下水は赤石より心配ないとしても、浅いところをトンネルが通るので、山梨の実験線と同じように水枯れが起こる。そうした場合に国の基準で30年間しか保障しない、金銭的にです。農業用水も含めてすぐに対応できるのかという心配があります。

もう一つ断層の問題では、今までわかっている大きな断層が二つ、その一つの清内路峠断層はまだ誰もちゃんとした調査をしていない。あんなすごい破碎帯をもつ清内路トンネルはまれです。木曽谷から伊那谷に向かってはすかいに貫いている長大断層であって、それに対して国はなんら手を打っていない。それは多分、人の住んでいない所なんか調査する必要がないという方針ですよ。

馬籠峠^{まごめ}の断層については調査してある。Sさんに案内してもらった時に馬籠の博物館の地下室に調査した時の断面が保存されているので、学芸員の方に見せてもらってください。馬籠峠はトンネルが横断するから産総研で調査したことがあり、たまたま国道拡幅時の調査レポートも出ています。地元で具体的な運動を起こしてもらえれば、と思います。

一番大きな問題は、大鹿村と南木曽町はいま残土受入れを拒否していますね。拒否しなければいけない問題です。環境影響調査で拒否している所があれば、やっちはいけないはずなんです。でも強引に国の施策だと言って行っている。国は文句を言えない、そういう一筆をJR東海がとっている。こういう問題が正々堂々と通る日本の情勢、やっちはいけない不正を通す社会を、少しでも草の根の力で排除していくべきだと思うのですが、私自身力がないし、みなさんも同じかもしれない。でもなんとか、阻止できないにしても明らかにしていくことだけは、未来のために残してほしいですね。こんな理不尽なことを政府も黙認して堂々とやった、なにか事故が起こった時にそれはどうなるのか、ということです。

A(長田): 先ほどの「トンネルは地震に強いから問題ない」とのJR東海の回答は真っ赤なウソです。新潟県中越地震(2004年)や新潟県中越沖地震(2007年)で山岳トンネルが相次いで被害を受けました。鉄道総研では、2005年以降、山岳トンネルの被害メカニズムの解明や地震対策の研究に着手しています。「嘘おっしゃい」「科学者会議のシンポで、鉄道総研では被害の事例を集めて研究をし対策を練っているということを聞いた」と、追及してください。トンネル屋さんのあいだでも地震に強いトンネルをどう造ったらいいか、重大な研究テーマになっていると聞きます。リニアのトンネルは山岳トンネルの掘削に最適といわれるNATM(ナトム)工法で掘削すると聞いています。JR東海の説明は不勉強、不誠実ですね。産業界の首脳陣が住民に対して不誠実だということは非常に重視しなければいけない、と思います。ある意味で国民無視の政治のあり方を反映している。その1例といえますが…。政府答弁でもはぐらかしが多いです。恥も外聞もなくウソを使い分けています。人の話を聞くふりをすることはあっても聞いていない、ただ

自分の言い分だけを通す。そういうことは許してはならない、毅然とした、根拠をもった迫及が必要だと強く感じます。

<リニアを本当に進めていいですか、と全国の人に聞きたい>

Q: 豊岡村から来ました。全国の人に考えてもらって、リニアを本当に進めていいですか、と問いかけていけないといけない。その方法として思いつくのは、NHKの討論番組で取り上げてほしい。一人でメールを打ったことがあります、全然相手にされなかった。科学者会議という大きな団体もあり、いろんな会ができて署名もしていますので、思いを同じにする人たちで、NHKに働きかけて討論番組を企画してもらえないかな、と思います。

A (野口): そこまでの力を持っているかどうか、わかりませんが、できるだけこうした機会を科学者会議としては続けていきたい、世論にも訴える、今日の皆さん方の声も全国に発信していきたい、そんな形で努力していきたいと思います。

A (松島): 駄目ですよ、要するに科学者会議にはそんな力はありません (笑い)。申し訳ありませんが経験で言うんです。3カ月前くらいTV愛知のリニアについての討論番組で、大学教授3,4人がリニアはすばらしい、とケンカしながら言うんですよ、俺が言うのがいちばん正しい、ということで。反対する者は橋山さんだけで、司会者の交通整理でやっと発言ができた。それがテレビの世界の現状、国の現状なんです。そういうことだけは理解して頂かないと。そんなに生優しいことではない、という意味なんです、返事になりませんが… (笑い)。

<沿線住民の生活と環境をもっと重視を>

Q: 私は下條村です。今聞いていると、トンネルが安全かということに重点がいて、それよりもリニアができる東京から名古屋の沿線の人たちの生活とか、環境を重視しないようで。私どもは、道路に非常に多くのダンプが通ったり、残土の問題ではここを埋めればいいやという村長の簡単な考えで下條村も100万立米だかを運ぶらしい。ダンプが通って生活が困るといったら、10年くらい我慢しろと。リニアが安全ということよりも、私は、そういう簡単なことで10年間なんで我々が苦勞しなければならないのか、ということの方が大事だと思うんです、異端者の意見かもしれませんが。

A (野口): 先ほど「人の命は地球より重い」という話がありました。生活、命を守ることは最も大事なことです。残土問題も大変重視しています。科学者会議には工学、経済、法律、いろんな先生がいて、取り組んでいます。 (つづく)